

八木三郎研究員「厚生労働大臣表彰」受賞

昨年12月12日(木)、おやさと研究所八木三郎研究員が厚生労働大臣表彰を受賞した。当日は午前中に挙行された表彰式典に出席し、午後からは皇居にて天皇・皇后両陛下に拝謁した。この受賞について『奈良新聞』は以下のように報道した。

「“障害者福祉に貢献！厚労大臣表彰・八木さんに” 障害者自立更生等労働大臣表彰式が12日、東京都千代田区の厚生労働省で開かれた。県からは自立更生部門で天理市在住の八木三郎天理大学准教授が表彰された。八木さんは肢体不自由1級だが、車いすを使いながら大学で社会福祉学や障害福祉学、手話学などを教えている。また県障害者施策推進協議会会長をはじめ県内の多くの福祉団体役員などを務め、社会福祉の発展に貢献してきた。八木さんは県の障害者福祉政策に関わってきた活動に触れ“お役に立てればという思いでやってきた。評価いただきうれいす”と喜びを表した。」



研究所で行われた祝賀会

な取り組みが実施されてきた。これらの活動は、対象者の意識改善に多少なりとも貢献してきたと考えられるが、その成果は費やされた資金、時間、エネルギーに見合っているとは言い難い。今後、派遣する側(JICA)の自己満足的な活動から脱却し、当該国の人々が自己目的的に活動できる方策を考える必要がある。

第7回「宗教と環境」研究会を開催(1月11日)

佐藤孝則

第7回目のテーマは「宗教倫理学の展望と宗教者の役割」で、最初に、同志社大学神学部教授で一神教学際研究センター長の小原克博氏に「宗教倫理学の展望と宗教者の役割—エネルギー政策を語るために—」と題して発表していただいた。

小原氏は、宗教倫理はなぜ必要かということの説明するなかで、二つのインターフェイスについて紹介した。「interfaith」と「interface」である。前者は、排他的な自己讃美に陥らないために宗教間対話を通じて共通課題を探ることであり、後者は自己完結した宗教的世界に安住しないために学際的研究を通じて社会的要請に応えることだと説いた。そして、一宗教の枠にとらわれない普遍的視点で考えることの重要性を強調した。その後、環境文化と宗教倫理にふれ、従来の環境文化は自然的環境、社会的環境、精神的・宗教的環境の三つに分けて考えられていたが、これを一体化させ、不可分なものとして考えることを提示した。その事例として、ジャワ島での反原発運動を挙げた。さらに、近代日本の宗教思想における自然理解を、キリスト教の視点からとらえ、内村鑑三や賀川豊彦、新島襄の考え方に言及した。また現代の自然理解として生物多様性を挙げ、環境問題に歴史的な次元を加え、自然や動物と人間の宗教史的な関係の多様性を評価し直す上でも、生物多様性は有益な視点を与えてくれると考えた。そのほか、「道徳的コミュニティ」にもふれ、「犠牲」の意義をいかに健全に保つか、また、拡張できるかという課題があることも述べた。一方、おやさと研究所からは澤井義次兼任研究員(天理大学人間学部教授)が、「『慎み』のライフスタイルとその実践—宗教倫理学の展望と宗教者の役割—」と題して発表した。



第266回研究報告会(12月13日)

エチオピアの体育・スポーツ事情

—青年海外協力隊の活動事例—

体育学部助教 梅崎さゆり

近年、エチオピアの経済成長率は10%を超え、急速な発展を遂げている。一方、貧富の格差拡大が進む同国のスポーツ事情は、家事手伝いの担い手である女子や貧困層の子どもたちが自由にスポーツに参加できないなど、「sport for all」とは程遠い現状を抱えている。また、同国の体育は、1クラス80~90人という大人数に対して、使用できる用具はボール2~10個およびマット数枚程度と限られた環境にあるため、理論中心の座学の授業が行われることが少なくない。さらに、授業数は週1コマのみであるため、子どもたちが様々な動きを経験できる機会は非常に限られている。このような事情のなか、これまで日本から派遣された体育・スポーツ分野(バレーボール、バスケット)の協力隊員によって、現地の体育教師やスポーツ指導者の質的向上を目指したセミナーが開かれてきた。その内容は、限られた環境下においても工夫次第で運動機会や運動量を確保できるアイデアの提示など多岐にわたっている。加えて、スポーツ参加への機会増加を目指した部活動の立ち上げなど様々

グローバル天理  
第15巻 第2号 (通巻170号)

2014(平成26)年2月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion  
Tenri University

発行者 深谷忠一  
編集発行 天理大学 おやさと研究所  
〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080  
FAX 0743-63-7255  
URL <http://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>  
E-mail [oyaken@sta.tenri-u.ac.jp](mailto:oyaken@sta.tenri-u.ac.jp)

印刷 天理時報社

Printed in Japan